○11 番（宮原隆昌君）
11 番宮原です。
大雨高潮等による浸水被害に備えた土のう袋の事前配布について質問いたします。
最近、毎日のように、全国各地で線状降水帯や記録的短時間大雨などによる水害が頻発しており、これまで経験したことのないような大雨によって、道路の冠水や住宅への浸水など、住民生活に大きな被害が発生しています。
土庄町においても大雨と高潮が重なった場合などには、道路や住宅地への浸水が発生する可能性があり、日頃からの備えが重要であると考えます。
さらに、現在の土庄町水防計画においても、土庄港、土庄東港をはじめ、ハザードマップに見られる町内の重要水防区域において、土のうが有効な水防工法として位置付けられています。
しかし、現在の対策は、災害が発生した際に、行政や消防団などが土のうを設置するという公助が中心となっています。レベル 3 を超えるような大雨が降り始めてから土のうを準備し、住民一人一人の住宅まで届けることには、時間的にも人員的にも限界があります。
そこで、災害が発生してから対応するのではなく、平時から町民が自ら浸水対策を行える環境を整えることが重要だと考えます。特に土のう袋そのものは、比較的安価であり町が大量に備蓄することが可能です。砂についても、地域の実情に応じて、町が確保する方法や、自治会や土木業者と連携する方法が考えられます。これは大規模な公共事業と異なり比較的小さい費用で町民が自宅や財産を守るための、自助を支援できる防災対策です。
以上を踏まえ、最初に、現在の土のう袋の備蓄状況についてお聞きします。
土庄町では、現在土のう袋を何袋程度備蓄しているのでしょうか。
また、どこに保管し災害時にはどのような体制で住民に提供するのでしょうか。あわせて、過去の使用状況についてですが、過去 5 年間程度において、大雨や高潮等の際に、土のうを使用した実績は、どの程度あるのでしょうか。よろしくお願いします。
○議長（濵野良一君）
総務課長　濵口浩司君。
○総務課長（濵口浩司君）
宮原議員のご質問にお答えいたします。
近年、全国各地で局地的な大雨や台風等による浸水被害が頻発しており、本町におきましても、出水期や台風接近時における水防対策は極めて重要な課題と認識しております。宮原議員のご質問のとおり、土のう袋の備蓄や配布体制につきましては、町民の皆さまの生命と財産を守るための重要な備えの一つと考え

ております。それでは、各項目についてお答えいたします。
まず 1 つ目の現在の土のう袋の備蓄状況につきましては、直近の令和 8 年 8 月時点におきまして、土庄町消防団水防倉庫及び土庄町消防団の 7 分団、合計で 34,790 枚の土のう袋を保有・備蓄しております。なお、花崗土につきましては、出水期前に必要に応じて分団ごとに補充を行っているところでございます。
また、過去の使用状況につきましては、消防本部に直接お越しいただいた住民の方へ配布した実績といたしまして、令和 2 年から令和 6 年までの 5 年間で合計 728 枚となっております。一方で、各消防分団を通じて自治会や個人の方々へ配布した枚数につきましては、現状では詳細な配布枚数の把握はしておりませんが、令和 6 年の台風 10 号では、730 枚使用した実績がございます。以上でございます。
○議長（濵野良一君）
宮原隆昌君。
○11 番（宮原隆昌君）
はい。わかりました。
次に町民への事前配布について質問いたします。
災害発生後ではなく、平時から希望する町民に土のう袋を一定数配布し、各家庭で浸水対策を行えるようにする制度を導入してはいかがでしょうか。
例えば、1 世帯 10 袋程度を目安として配布するモデル事業を実施する考えはございませんでしょうか。
さらに地域への備蓄について自治会、地区公民館等と連携し、土のう袋と砂を地域に備蓄する、土のうステーションを設置する考えはありませんか。
また、高齢者世帯など、自分で土のうを運搬設置することが困難な世帯について、自治会、消防団等と連携した支援体制を構築する考えはないでしょうか。町長のお考えをお聞きします。
○議長（濵野良一君）
濵口課長。
○総務課長（濵口浩司君）
宮原議員のご質問にお答えいたします。
3 つ目の町民への事前の配布につきましてですけれども、町民の皆さまへの事前配布につきましては、台風の接近時など災害の発生が予想される事態において、町民の方から要望があった場合には、消防本部または各消防団から必要に応じて土のう袋の事前配布のほうを行っているところでございます。
また、地域への備蓄の考え方につきましては、町内の消防分団ごとに備蓄している土のう袋を、それぞれの地域における身近な備蓄として位置付けております。地域に密着した場所に備蓄しておくことで、災害の危険が迫った際に、各地区において迅速かつ効果的に活用していただけるものと考えております。

また、高齢者の方への支援につきましてですけれども、高齢者の方など、ご自身で土のうの運搬であったり、設置が困難な方への支援につきましては、自治会の皆さまや消防団員が協力し、土のうの作成や設置等の支援を行っていただいており、地域の自助・共助の精神に基づくこうした活動には大変感謝申し上げる次第でございます。

町といたしましても、引き続き、配慮を要する方々への支援体制の確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（濵野良一君）

宮原隆昌君。

○11番（宮原隆昌君）

はい。小豆島では、50年前に6日間で年間雨量を上回る1400ミリの豪雨が降りまして、島内で死者39名を出し、壊滅的な被害が島中に発生いたしました。平成16年には高潮災害もありました。

最近では、再整備されている都市下水のポンプ場の排水機能、時間50ミリをはるかに超える100ミリ以上の豪雨が全国各地で降っております。

いつ、土庄町が大雨災害に遭ってもおかしくありません。

まずは、総務課長の答弁にありました、希望者に土のう袋を事前配布していることを、防災無線を通じて広く周知していただきたいと思います。

今後は、今までのやり方ですと全く間に合わないと思いますので、町民の生命と財産を守るためにも、まずはモデル地区を設定して、土のう袋の事前配布や、希望する各自治会ごとに土のうステーションの設置を実施することを提案し質問を終わります。